

授業科目 病態と診療Ⅱ（1） 循環器	区分・教育内容 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者 五十嵐 知規（中通総合病院）	開講時期 中期	単位 1 単位	時間数 10 時間／30 時間
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。			
授業の目標			
1. 病因と病態の特徴を理解する。			
2. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。			
授業概要			
本分野は、全身のまさに循環を対象とするものであり、その知識はどのような疾患、患者を対象にするにしても必須のものである。看護における循環管理の重要性を認識し、その知識を確固たるものとしていただきたく、本授業を行う。			
授業計画(進め方)			
テキストに沿って授業を行う。ただし、テキストに載っていないが、病態などの理解のうえで重要な事項についての講義を重点的に行うので、テキストの内容の予習、復習は各自でも十分に行っていただきたい。			
1 回目 先天性心疾患 心臓弁膜症			
2 回目 動脈系疾患、静脈系疾患 虚血性心疾患			
3 回目 血圧異常 心筋疾患			
4 回目 心不全 心臓カテーテル検査、カテーテル治療			
5 回目 不整脈 その他			
テキスト			
系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法			
筆記試験			
病態と診療Ⅱ 150 点満点中の 50 点			

授業科目 病態と診療Ⅱ (2) 呼吸器	区分・教育内容		
	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者 中通総合病院医師	開講時期	単位	時間数
	中期	1 単位	10 時間 / 30 時間
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。			
授業の目標 1. 病因と病態の特徴を理解する。 2. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。			
授業概要および授業計画 (変更の可能性あり) I. 呼吸の生理 <換気とガス交換> <低酸素血症の成因> <酸塩基平衡とは> <酸素解離曲線> <呼吸不全と酸素投与> <呼吸機能検査> II. 呼吸器疾患の症状 <症状> <他覚症状> <聴診> III. 呼吸器疾患の検査と処置 喀痰、胸水の検査、画像診断、気管支鏡検査について IV. 呼吸器感染症 急性肺炎、慢性下気道感染症などについて V. 間質性肺疾患 突発性間質性肺炎、膠原病に伴う間質性肺炎など種々の間質性肺疾患について VI. 肺結核・非結核性抗酸菌症 VII. 気管支喘息 VIII. 慢性閉塞性呼吸器疾患 COPD IX. 肺癌 X. その他の疾患 肺血栓塞栓症 睡眠時無呼吸症候群 XI. 気胸、縦郭腫瘍など呼吸器外科的疾患 I・IIは入門編。この講義で呼吸器の生理と病気、そしてその症状、他覚所見について基本を押さえ、呼吸器疾患についての関心・興味が持てるようにする。III以下で代表的な呼吸器疾患のあらましを把握し、後の自己学習の機会に立ち返るノートとすべく基本を学ぶ。 全体を通じて、患者さんを前にした時の観察のポイント、疾患の考え方、基本的治療法などを学ぶ契機にすることを目的とする。			
テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 病態と診療Ⅱ 150 点満点中の 50 点			

授業科目 病態と診療Ⅱ (3) 腎・泌尿器	区分・教育内容		
授業担当者 藤原 崇史 (中通総合病院)	開講時期 中期	単位 1 単位	時間数 10 時間 / 30 時間
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。 授業の目標 1. 病因と病態の特徴を理解する。 2. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。			
授業概要 主要な腎疾患、泌尿器科疾患の病態生理が理解できるように授業を進める。テキストに沿って授業を行うので、予備知識としてあらかじめ眼を通しておいて欲しい。 授業計画(進め方) 1 回目 腎泌尿器の構造と機能 2 回目 症状とその病態生理 尿と血液検査及び血圧の性状と異常 排尿のメカニズムと排尿異常 3 回目 検査と治療 腎機能検査と画像診断 生検 (腎、膀胱、前立腺、精巣の組織検査) 感染症と悪性腫瘍の治療、手術 (尿路変向術、腎移植) 透析療法 (血液透析と腹膜透析) 4 回目 疾患について 腎不全、腎炎、全身性疾患に伴う腎障害、腎の血管病変 感染症、尿の通過障害、悪性腫瘍 5 回目 患者の看護 浮腫、高血圧、排尿障害のある患者の看護 薬物治療を受ける患者の看護 透析治療を受ける患者の看護 手術を受ける患者の看護			
テキスト 系統看護各講座 専門Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 (選択式、記述式の両方を予定) 病態と診療Ⅱ 150 点満点中の 50 点			